

相模原市のみなさん、こんにちは。

今年の冬は相模原でもかなり雪が降ったと聞きました。もう3月も下旬となり、暖かくなっている頃でしょうか。こちらニカラグアは本格的に乾季に入り、暑い季節になってきました。今回はニカラグアの人種・民族の背景について簡単に紹介し、任地ヒノテガ島のちょっと特殊な地域ココ川沿い村落部事情についてお話ししたいと思います。

ニカラグアの国民の多くはメスティーソと呼ばれる白人と先住民インディオの混血ですが、その他にも黒人、先住民インディオ等様々な人種が存在しています。ニカラグアはスペインの植民地であった為、現在も公用語はスペイン語です。しかし大西洋側の一部は英国領であった場所もあり、今でも日常的に英語（クレオール英語）が話されている場所があります（現在も大西洋側は、北大西洋自治区と南大西洋自治区という名称で存在している）。主に大西洋側海岸部には多くの黒人人口が見られ、北大西洋自治区北部にはミスキート族と呼ばれる先住民インディオが住んでおり、ミスキート語という言語が使用されています。

このようにスペイン文化、インディオ文化、黒人文化等の様々な文化が混ざったものがニカラグアの文化です。私の任地ヒノテガ島は、ニカラグアの北部にあり北はホンジュラス、東は大西洋側自治区に隣接しています。特に大西洋側自治区との県境付近は、ミスキート族が住んでおり、少し特殊な地域として扱われています。私の配属先は保健省県事務所なので、県内に存在しているこの様な村落も管轄地域内となっています。ヒノテガのミスキート族は町から遠く離れた場所に住んでいる事で有名です。ココ川という川をボートで下っていき、2日後ようやく村にたどり着くという様な所もある位です。このような場所では携帯やテレビの電波も入りません。シャワーはなく、川で水浴びをして体を洗います。洗濯ももちろん川です。ミスキート族の中にはスペイン語を話せる人もいますが、スペイン語が全く話せない人もいます。配属先の同僚で、ココ川沿い村落に出張によく行く同僚は、ミスキート語の簡単なフレーズを覚えており、それでコミュニケーションを取っているようです。もちろん仕事をやる際には、スペイン語とミスキート語の両方を話せる人に通訳してもらうようですが。

なぜ今回このココ川沿いのミスキートコミュニティについてご紹介しようかと思ったかというと、私の配属先での今一番熱い話題だからです。私は県事務所の中でも媒介虫対策班という、主に虫によって感染する感染症を扱う部に配属されています。このココ川沿いの村落では以前はマラリア流行地域で、現在でもマラリアの症例が見られています。ニカラグアでは大体5月位から雨期に入ります。雨期に入ると蚊の量が増える為、毎年この雨期に入る前の4月に蚊帳を配布する為の遠征出張があります（マラリアは蚊によって感染します）。なんととっても遠いので一度遠征にいくと8日～15日間は帰ってきません。この様な村では油、塩等を入手するのも難しい場合があり、滞在期間分の食料や水等を全てボートに積んで持って行きます。同僚は最近、毎日去年のココ川地域への遠征時の写真を見せてくれて、ミスキート族の生活の話、ミスキート語等を教えてくれます。今年の4月の遠征を本当に楽しみにしているようです。話を聞いていると電気、水、食料も十分になく、厳しい環境だと私は思うのですが、同僚は本当に楽しそうに遠征について話すのです。私は行った事がないのですが、彼の話を知っているだけで、同じニカラグア国内なのに外国にいった様な不思議な気分になります。去年の遠征の時に同僚が取った写真も一緒に送ります。相模原市の皆さんにも、ヒノテガのちょっと特殊地域ココ川周辺の雰囲気伝わればいいな、と思います。長文読んで頂きありがとうございます。またレポートしていきますね。



写真1 . ボートで川を下っていきます。



写真2 . 遠征を頻繁にするのは難しいので、遠征時には蚊帳を配布するだけでなく、予防接種も行います。



写真3 . 学校でのアクティビティー

(写真の使用許可取得済み)